

訳し方に工夫のいる英語表現と 構文研究

—昭和59年度西日本地区国公立大学二次試験問題より—

川久保 精 祐

訳し方に工夫のいる英語表現と構文研究ノート

(昭和59年度西日本地区国公立大学二次試験問題英語構文および語法研究ノートより)

この研究は大学に於ける英語教育の在り方への一思考の為にしたものであり、*syntax* の研究程深いものではありません。

まず最初に各大学の問題入手に際して御協力頂いた各機関に深謝申し上げます。ここに上げておりますのは、各大学の入試問題の中で英文和訳に出題された個所についての一研究ノートであり、御批評、御教示を期待致します。

問題はいずれも重要語(句)を中心とした、又高校教科書レベルよりやや難な単語と構文を用いてあり、しかもひとひねりされた構文や語句が多く、訳出に技術のいる問題が多かった。受験生にとっては、「単語の意味さえ知っていれば」という学習法では、この様な英文が読めないであろう。辞書の使い方も、ある語を引いたら、その語訳中の語をさらに引いてみるという英語学習の習慣を身につけていなければならない英文であった。引きたい語を引いて、そのまま辞書を閉じてしまうと言う平面的な学習の仕方をする現在の高校生にどの程度の正解が得られたか疑問である。関連する個所を次々に引いてみるという習慣、つまり立体的学習法によって理解度をより広く、深くする指導が必要であろう。もう一つコメントしたい事は抽象的テーマが長文に多く使われているという事です。一読しただけで意味がはっきり分からない英文が何故入試問題

で扱われるのかと云うことです。例えば、九州大学の問題 (p-176-の注意すべき名詞、形容詞、副詞の表現の5番の問題と p-190-の見落とし易い構文と語法の10番の問題) と九州歯科大学の問題 (p-187-の2番) です。この文章の特徴は抽象名詞が多く、文章が抽象概念の強調で、もし英語教育の目的が文部省で言う「使える英語」を目標にした新指導要領に基づく新教材であれば、生徒の負担がいちじるしく、益々生徒の学力と入試問題とのギャップが開く危険性もはらんでいる。それに文章自体も古いと思われ、特に何か専門語の感じさえる慣用表現が何故受験生の語学力をテストする問題に使う必要があるのか私には疑問である。尚、現在の大学生にどう指導するかも大きな課題である。

特に「比較、否定、仮定法、強調、名詞、分詞、動名詞」の構文は、まぎらわしい慣用表現が多いため、文法、解釈、作文のいかに問わず英語力をレベルアップするためには、先ず基本的な五文型や正常な基本構文への十分な知識が必要である。新教育課程で教科書から“grammar”が消えたが、60年度の大学入学者に今以上の文法力を期待するのは無理となろう。従って、今後の大学に於ける英語教育をどう発展させて行くかを真剣に取り組まねばならない事を痛感してやみません。

尚、試験問題そのものの英文の誤法上の誤りと思われる個所については※印をしてノートしております。特に、西南大58年度入試英語(長文)は英文それ自体に文章構成上の誤りがあり、学生に読ませる英文としては望ましくない。未熟な研究故諸先生方の御批判を御願ひしてやみません。

「訳し方に工夫のいる英語表現と構文」※A (59年度問題)
B (過去出題された頻出表現) より

【1】訳しにくい動詞表現

A - 1. The Japanese delegation often confines itself to smiling when it enters the auditorium and sleeping during the discussions. (熊本女子大)

confine oneself to ~ing 「言うことを~の範囲にとどめる」 = keep

saying within limits と同じ意味。この時の < to > は前置詞で、後に名詞相当語 (句) が来る。

訳「日本の代表団は会場に入る時は、しばしば言葉を微笑の範囲にとどめ、また会議中はいねむりだけにとどめている (いねむりばかりしている)。」

2. My parents really pushed me to go to college, although I had no burning desire to do so. Of course, now I am glad they did. (北九大)

< push > 他動詞で < press > と同じ意味の他に < emphasize someone to do > の意味があり、本文は後者である。< burning > は形容詞で < very strong (of feelings) > の意である。従って訳は、

「私には、そうしたいと言う強い願望はなかったのだが、両親が実のところ、私に大学へ行くように勧めたのです。」

3. Everyone knows what is supposed to happen when two Englishmen who have never met before come face to face in a railway compartment. (福教大)

< be supposed to do > = be expected to do と解することが出来、「何が起ることになるのか」と訳出されよう。< come face to face > 「面と向かい合う」、< compartment > 「(列車内を区切った) 客室」であり、従って和訳は次のようになる。

「以前に一度も会ったことのない二人の英国人が列車の客室で顔を合わせると、どんな事が起ることなのかは誰もが知っている。」

4. If as by accident it be lost, it is conceivable that a mechanical hand might be substituted for it, which, though not a part of the body, would function for all practical purposes as a hand of flesh and

blood. (廣大)

< it is conceivable that ~ > = < can be thought of or believed >
の意で「～と思える, ～と考えられる」, < be substitute for ~ > =
be used instead of ~ 「～の代わりに使われる」の意味。< flesh and
blood > = human beings or the human body の意「肉体, 人間」。全
体の訳は,

「若し, 事故のようなことで人間の手が失われても, 人工的な手がそ
の代わりに使われるだろうし, そしてそれが体の一部ではないけれど
も, 血の通った人間の手として, あらゆる実用的な目的に役目を果た
すだろうと思える。」

5. A hoe may be regarded as a highly specialized hand, so also logi-
cally, if less in shape, a plow. (廣大)

< be regarded as ~ > = be considered as being something 「～であ
ると見なされる」から解して,

「くわは高度に専門化した手と見なされてもよい。従って, すきも形
においては劣っていても, 論理的には同じであると見なされる。」

- B - 1. Where can I reach you? (防衛医大)

< reach > = communicate with ~ の意味。

「どちらに連絡すればいいですか。」が全体の意味。

2. Please see that these books are sent to him. (帝京大)

< see that ~ > = see to it that ~ (= take care that ~) 「～する
ように計らう」の意味で, 全体の訳は,

「これらの本が彼の所に届くように取り計らって下さい。」

3. You shall want for nothing as long as I live.

< want >は自動詞で be lacking「欠く」という意味である。それで
< want for nothing >=have everything necessary, となり, よく
使われる表現であるが訳し難い。

「私が生きている限り不自由はさせない。」

4. It is thought that counts.

< count >自動詞で be of value「価値がある, 大切である」の意。
訳出は次のようになる。

「大切なのは気持です。」=(気は心です)

5. My memory often fails me. (関西大)

< fail >他動詞で desert「見捨る」の意。易しいようで日本語になり
にくい動詞表現。

「ど忘れすることがよくある。」位の意味になろう。

【2】注意すべき名詞・形容詞・副詞の慣用表現

- A - 1. I am in the way. I'm superfluous. (北九大)

< in the way >=be an obstacle の意で, 全体の訳出は,
「私は邪魔者なのだ, 私は不必要なのだ。」

2. on the defensive (北九大)

< on the defensive >=to guard であるから, 設問の意味は, 「守勢
をとる」となる。

3. During the centuries of exploration, from the sixteenth to the
eighteenth, the map of the Pacific gradually took shape-island by

island, strait by strait, sea by sea. (佐大)

< island by island > = with a succession of island の意である。

即ち strait by strait や sea by sea の < by > は前置詞で with a succession of ~ の意味で訳出すればよい。

「16世紀から18世紀までの数百年の探険の時代に、大平洋の地図は、島が一つづつ、海峡が一つづつ、海が一つづつ、と次第に形をなして来た。」

4. When this light is properly cast, linguistics ceases to be the dry-as-dust subject that many people have suspected it of being. (大分大)

< cease > = come to an end, < dry-as-dust > = dull and uninteresting, < of being > = of existence であり、従って和訳は次のようになる。

「この光が正しく投げかけられれば、言語学は多くの人が、その存在を疑って来たあの無味乾燥な学問である事に終止符を打つのです。」

5. The impression that science is incomprehensible magic, to be understood only by a chosen few who are suspiciously different from ordinary mankind, is bound to turn many youngsters away from science. (九大)

< incomprehensible > = beyond understanding, < by a chosen few > = by a selected few people, < suspiciously > = in a doubtful manner, < is bound to ~ > = be sure to ~. 各々の語句が日本語に表現しにくい難問である。全訳は次のように言える。

「科学は不可解な魔術であり、普通の人間と怪しげに違う感じのする少数の選ばれた人にしか理解されないものである、と言う印象は、必ず多くを若者を科学から遠ざけることになる。」

6. This mutual relationship is of more importance than any teaching method. (山口大)

< of importance >=important. (of + 名詞=形容詞) の基礎的な知識を要求した問題であると思われがちだが英文の中では非常に頻出度の高い語句であろう。

「この相互関係はどんな教授法よりも大切である。」

7. Still language instruction on the whole seems to have advanced very little over where it stood at the end of the Meiji period. (長大)

< still >副詞で however 又は inspite of that と同じ意味。< on the whole >=in general (概して), < very little >=very small in degree, < over where >= through all parts of, < at the end of ~ >= at the last point of ~, これらの語句を的確につかんでいないと日本語になりにくい英文であろう。全訳は次のようになる。

「しかし乍ら、全体的に見て、(日本の)外国教育は、明治時代の終りに有効になって以来、ほとんど進歩して来ていないようである。」

8. There should be in Japan an especially keen realization of the need for effective international communication to achieve true. (長大)

< keen >=eager. 下線部は、それぞれ特に難しい語ではないが、訳出に工夫のいる英文であろう。

「効果的な国際間の意志伝達が真の目的を達するように、日本人はとりわけその事については熱心な理解の必要(熱心に理解に努める必要)があるべきだ。」

B - 1 . In the Orient, beware of personal contact, including shaking hands.

(大阪大)

< personal > = of a person's body の意味であって, private 又は individual の意味ではない。

「東洋では, 握手を含めて, 身体的接触には気をつけなさい。」

2 . This is the first great step of human development, when out-of-sight ceases to be out-of-mind. (広大)

< out-of-sight > = out of the range of being seen, < out-of-mind > = it is easy to forget. この英文は, proverb として訳も多くあるので一見とり取り易く, 日本語にしようとする工夫のいる英文であろう。

「この事は人間の成長の大きな第一歩であり, そしてこの段階で視野から消えても簡単に忘れることはなくなるのです。」

3 . It is of great moment whether he will help us or not.

< moment > countable noun で importance 「重要」の意味。

「彼が私たちに助けてくれるかどうかは極めて重要な事だ。」

4 . I was caught in a traffic jam.

< jam > = a mass of people or things.

「交通渋滞にひっかかった。」

5 . You are welcome to any book in my library.

< welcome > = permitted gladly to use or enjoy の意で, わかり易い日本語で言えば, 「自由に……してよい」となる。

「私の蔵書はなんなりと自由にお使い下さい。」

6. There are trees on either side of the street.

< either > = each の意味で使われている。単数扱い。

「通りの両側に樹木がある。」

7. For God's sake, don't be so cross! (筑波大)

< cross > adjective で out of humor 「不気嫌な」の意味で用いられているのに注意が必要。

「お願いだから、お手やわらかに。」

8. I enjoyed your society very much.

< society > = companionship 「つきあい」の意。

「あなたとご一緒できて大へん楽しかった。」

【3】日本語になりにくい前置詞表現

- A - 1. I moved my lips and gestured frantically without result. (熊大・法)

< without result > = in vain 「～は無駄になった」が訳出に誤り易い語句。

「私は狂ったように口を動かし、身振りをしたが無駄であった。」

2. To the millions of patients who complain of sleeplessness or of feeling sleepy during the daytime doctors have offered very little except sleeping-pills. (佐大)

< complain of ~ > = tell of one's pains, < except > は、予め述べた全体から except のあとに来るものを除外する、と言う意味なので、all, every, no, always, never など 100% を示す語のあとに来る。

except for は、常に副詞句で文全体にかかり、文頭に出るときもあ

る。

「眠れない、とか、昼間でも眠い、と訴える数百万の患者に対して、
医者達は睡眠薬以外には、殆んど何も与えなかった。」

3. I was always sent for when there was company. (熊大)

< send for ~ > = send a messenger asking someone to come ~ =
call 「呼びにやる」

「来客がある時はいつも私のところへ使いが来た。」

4. The choice between normal life and life in a convent, where the
only educational opportunities existed, was a hard one. (琉球大・
法・教)

< between A and B > の構文と関係副詞継続用法に注意が必要。

「普通の人の生活をするか、修道院での生活をするか、そしてそこでは
唯一の教育を受ける機会が存在していたのだが、その選択は困難な
ものであった。」

B - 1. He can speak Japanese well for a foreigner. (産業医大)

< for ~ > = in comparison with ~ 「~の割には」の意で、例、It is
very warm for December. などに見られる。

「彼は外国人にしては日本語がうまい。」

2. November is the last but one month of the year. (神奈川大)

< but > preposition で except の意。< the last but one > は「最後
から2番目」と訳すべきであろう。

「11月は1年の最後から2番目の月です。」

3. To our surprise, she has gone to Brazil alone. (共通一次)

< To~ >=So as to cause の意で、結果、効果を表わし、「~した事には」と訳す。

「驚いたことには、彼女はひとりでブラジルに行ってしまった。」

4. The drinks are on the house.

< on >=with……paying or at the expense of ~の意の on で、「~が支払うべきで、~の負担となって」と訳す。

「酒は店もちです。」

【4】文脈に注意すべき接続詞表現

A - 1. Bright children, as they grow older, traditionally have found their schools dull and confining, except for the other children they meet there. (福岡女子大)

< as > conjunction で according as の意。比較級と共に用いて、「~するにつれて」と訳す。

「利発な子供達は成長するにつれて、彼らがそこで出会う他の子供達は例外として、伝統的に自分達の学校を退屈で窮屈なものであることを知る。」

2. As experience, it is a time of expanding the mind and enlarging awareness of oneself and the world. (北九大)

前文の and は it is a time of enlarging……の事で、後の and は oneself and the world である事に留意。

「経験として、それは視野を広げ自分と実社会の認識を深める時期なのです。」

3. Slowly the shape of Australia emerged on the map of the world,

but before the final details of Australia's outline were known, the first settlements had been made upon coasts. (佐大)

< before > = earlier than ~ 「～より前に……していた」「徐々にオーストラリアの形も、世界地図の上に姿を現わした、がしかしオーストラリアの輪郭の最終的な詳細な部分が知られないうちにその海岸には最初のいくつかの植民地が作られていた。」

4. I knew by the way my mother and aunt dressed when they were going out. (熊本大)

< and > は A and B 型で simple だが、前文の by the way と my mother and aunt dressed の間に関係詞が省略されているのが見落され易い。< when > = during the time の意で訳す。

「私は、母やおばが外出しようとしている時は、着物の着方で知っていました。」

5. She probably doesn't realize what a vital period this is for him. (大分大)

< what > adjective で「何という、どれほど」という意味の感嘆用法の what である。

「彼女(そういう母親)は、この時の子供にとって、この事がどれ程大事な時期かおそらく分かっていないであろう。」

6. Language, on the other hand, is something to which everybody contributes by the mere fact that he speaks it. (大分大)

< to which > = contributes to something の to である。< that > は名詞節の that で「～という……」程度の意。

「また一方では、言語は全ての人がそれを話すという唯それだけの事実で皆んなが助かるものなのです。」

7. There are times when the rock rolls back once Sisyphus has pushed it up the hill and tumbles all the way down to the plain in which it started.

< when > relative adverb の when で at which の意。< once > = as soon as (接続詞), < in which > = it started in the plain の in である。

「シシファスが岩を山に押し上げるとすぐにもとの平地にゴロゴロと落ちて戻って行く時期がある。」

8. We do not know whether the rock will ever get to the top, although modern men, contrary to Sisyphus, have built artificial steps half way up the hill beyond which it does not roll back if it gets out of control. (大分医科大)

< whether > conjunction で if it be the case that ~ の意, 間接疑問文を導く名詞節で, if も用いる。< although > = though, 又は in spite of the fact that ~. if = even if.

「岩が常に山頂に戻るかどうか我々には知るよしもない。とは言え現代人はシシファスとは違い, たとえ岩を思いどおり動かせなくとも(制し切れなくても), 転げ落ちぬように山の中腹に人工の階段を作っておく。」

9. Once he knows nothing he begins to know something, and from there it is really only a stap to "happy ever after". (熊本女子大)

< once > conjunction で from the moment that ~ の意。

※問題文英語 < know > の語法上の誤りについて < he began to know something > の know 「知っている」は知識が以前から頭の中にあった事を示す状態の動詞である。従って新しい知識の獲得を示す動作の動詞であれば, 本文では < learn > か又は < notice > を用いるべきであろう。例えば次の事が言える。

“Do you know his name? (状態)—“Yes, I do. I learned it by asking my brother.” (動作)

< find out, notice, learn >知識の獲得を表わす。< know, understand, realize >知識の保持を表わす。

問題文の訳は次の様になる。

「彼は自分が何も知らないことが分かると、何かを知り始める。そしてそこからが本当は、“それからの幸福” への第一歩に過ぎないのである。」

10. A friend of mine who felt that he had been travelling too much and declined to attend one conference was informed that unless he attended Japan would not be represented at all. (熊本女子大)

< that >は felt を修飾する名詞節。< and >は who felt and declined の意で、関係代名詞の who にかかっている接続詞。後の that は informed を修飾する名詞節であり、文脈に注意すべき構文である。

「旅行をし過ぎていると思って、ある会議に出席するのを断わった私の友人は、もし彼が出席しなければ日本は全く代表を出さない事になると言われた。」

11. Provided they can be tamed and induced to place their services at the disposal of single government rather than of mankind. (九州歯科大)

< provided > conjunction で on the condition that ~又は if ~と同意の「~という条件で、もし~ならば」の意。provided, providing は必要条件を示し、それが満たされることに重点が置かれる点で < if >と異なる。providing は口語的である。尚この反対が unless となる。訳出は文脈に大変注意を要する。「もし彼らが飼い慣らされ、説きふせられて人類というよりもむしろただ一つの政府の思い通りに彼らの仕事をするならば、」

12. What bores me the most are classes and teachers who do not push my thinking or my feelings in new directions or into more profound realizations. (北九大)

< what >(relative pronoun)=the thing which~, 後の< who >先行詞は classes and teachers で「～なのは級友や教師達」。classes が「教室」の意味ならば関係詞は, 先行詞が, (物+人)の時の that となろう。訳は「私が最もうんざりするの, 私の考えや感情を新しい方向やより深い認識の中に押しやってくれない級友や教師達である。」

13. I've met many Japanese who are proud of their economic success and look down on the English. (鹿児島大)

< who (relative pronoun) >は A and B の両文を受けている関係代名詞で訳出に工夫のいる構文である。

「私は自分達の経済的な成功を自慢しイギリス人を軽べつする多くの日本人に会った事がある。」

【4】ミスやさそう接続詞表現

- B-1. The man ran away the instant a policeman came in. (福岡大)

< the instant (that) ~ > conjunction で just as soon as ~と同じ意味である事に気付けば後は simple な文である。しかし 学生がよくミスをする英語表現である。

「警官が入って来たのとたんに, その男は逃げ出した。」

2. But that rain came on, they would have succeeded in reaching the summit. (福岡大)

< But that ~ > の but は前置詞, 接続詞両様に解し得る。意味は but that ~ = unless ~ で「～しなかったら, ～がなかったら, ～を除外すれば」となる。本文訳は,

「雨にならなかつたら、彼らは頂上にうまくたどり着けただろうに。」
となり、仮定法過去完了の文に気付けば訳出も困難ではない。

3. Seeing that he is young, it is no wonder that he sometimes makes a mistake.

< Seeing that ~ > = In view of the fact that ~, または considering that ~ と同じ構文で、「~を考えて、~であるから」となる。

「若いのだから、彼がときどき間違いをするのも当然だ。」

4. It was a good hotel as hotels go.

< as (conjunction) > は程度の as で “in the same state” の意味、即ち「~のように」と訳ができよう。< hotels go > の “go” は be known の意味「(~という名で)知られている、一般に言われている」になりミスをしそう問題である。

「世間一般のホテル並みに言えば、それはよいホテルだった。」

5. I would die before I betray my friends.

< before (conjunction) > = rether than ~.

「私は友人を裏切る位なら死んだ方がました。」

6. Where ancient people knew nothing, we know a little.

< where (conjunction) > = at the place which 「~するところを」の意。訳出によくミスをしそう英語表現である。

「昔の人たちが全然知らなかった事をわれわれは少しばかり知っている。」

7. You must not look down on a man because he is poor.

< because > は否定文中で「~だからと言って」と訳した方が日本語らしくなる。日本語=英語にならない構文である。

「貧乏だからと言って人を軽べつしてはいけない。」

8. Now that he is gone, we miss him very badly.

< now that ~ > = as a result of the fact or since ~ 「～だから、～である以上は」の意味で、訳出しにくい接続詞である。

「彼が行ってしまったので私達はとても寂しい。」

【5】見落しやすい構文と語法

A-1. They suggested that he should take a year's vacation, to travel, to work, to do whatever he wanted to do before deciding whether or not he wanted to go to college. (北九大)

< whether or not > = whether……or not のように相関的形式の構文になっていないが同じ意味であり、むしろこの形が最も普通である。

whether or no = in either case 「ともかく、いずれにせよ」の形もしばしば用いられて見落とし易い構文である。

「彼らは彼が大学に行きたいかどうか決める前に、一週間休暇をとって旅行するなり、働くなり、したい事は何でもやってみてはどうかと勧めた。」

2. It was only the power over natural forces conferred by science that led bit by bit to a toleration of scientists. (九州歯科大)

< It was……that ~ > 強調構文 (emphasizing an adverb phrase) で「～なのは……であった」と訳出すべきであろう。本文は、< Only the power over natural forces conferred by science led bit by bit to a toleration of scientist. > の主語の部分をも < It was……that ~ > で強調した形である。that の代わりに which を用いてもよい。強調されるのは、名詞・代名詞・副詞 (句・節) である。また that 以下が現在

時制の時は普通 It is……that となる。この構文は59年度の入試では極めて頻出度が高かった。全訳は次の様になる。

「科学者を徐々に認容するように仕向けたのは、科学によって授けられる自然の力を越える唯一の力であった。」

3. It is from these that the children learn, far more than they ever do from books or in their classes, the languages, its rhythm, and the fundamental principles of ethics. (福岡女子大)

<It is from these that ~>=emphasizing an adverb phrase で that 以下に句や節があって見落し易く、また訳しにくい英文であった。全訳は次のようになる。

「子供達が言葉やそのリズムや基本的な道德原理を本や授業からいつも学ぶよりはるかに多く学ぶものは、これらからである。」

4. It is our very consciousness and deliberateness that inhibit our fluency. (山口大)

これも強調構文である。しかし It is……that ~の強調の部分が離れているので見落し易い構文である。尚、一昨年の共通一次のように、整序問題と書き換え問題を組み合わせたような、

He didn't arrive until the discussion was over.

=It () () () the discussion was over () he arrived.

という問題も強調構文であり、学生にとっては幅広い学習が必要な構文である。本文訳は次の様になる。

「私達の(言葉の)流ちょうさを抑制しているのは、私達のまさにその意識しすぎと慎重さにある。」

5. The stars are best seen as a spectacle, not from everyday surroundings where trees and buildings, to say nothing of street lighting,

distract the attention too much, but from a steep mountainside on a clear night, or from a ship at sea. (山口大)

< not……, but ~ > 相関接続詞で on the contrary 「……ではなくて～である」となり, 前に否定語がある時は注意が必要。本文訳は次のようになる。

「星は街の明りは言うまでもなく, 樹木や建物があまりにも注意をそらし過ぎてしまうので毎日出くわすような平凡な場所からではなくて, 晴れた夜の峻しい山腹や洋上の船からだどと壮観して最も美しく眺められる。」

6. Probably the most important thing about the conversation between our two Englishman is not the words they are using, but the fact that they are talking at all. (福教大)

< not A, but B > の構文だが, A の部分は関係詞節があり, また B の部分には名詞節の that があり訳し方に工夫のいる英文であった。

「多分この二人の英国人との会話で一番重要な事は, 使っている言葉ではなくて, とにかく語り合っているという事実なのである。」

7. Surprising turns of plot are appreciated, not as incidents arranged in such a way as to bring out subtle kinds of significance that can be more deeply appreciated at each subsequent reading, but simply as devices to keep the reader in suspense until the mystery is solved. (福岡女子大)

< not A, but B > の構文であるが, A の部分に, 句 such……as~, と関係詞 (that) 節があり, not……but の構文を見落とし易い英文である。全訳すると,

「読み続けてゆくごとにますます味わい深くなる微妙な意味合いを生み出すような方法でまとめられた事件としてではなく, 唯単に謎が解

けるまで読者をはらはらさせておく工夫として意外な筋書きの展開が愛好されている。」

8. Anyone who has been in a foreign country or has talked to foreign visitors in his own will know that much misunderstanding arises from unfamiliar patterns not in language but in culture, in the understanding of situations that accompany the use of language.

(北九大)

< anyone who ~ > = whoever 「誰でも」、know that ~ の that は文末までの名詞節である事に気付けば、< not……, but ~ > は見落すことがないのだが。また、< ……situations that ~ > の that は accompany 以下の名詞節である。訳出にとっても工夫のいる英文であった。

「外国にいたことのある人や、自国で外国人（の訪問者）に話しかけたことのある人は誰でも、言語の使用に伴う状況を理解しようとする時多くの誤解を生じるのは、言語の面ではなく、文化の面においての不慣れな様式が原因であると知っている。」

9. I cannot remember any instance in which this feeling prevented me from repeating the naughtiness when I failed to get what I wanted.

(熊本大)

< prevent……from + ~ing > = stop……doing 「人が……出来ない」、fail to ~ = not do or neglect 「~をしない、~を怠る」の意。この文も節が多く見落とし易い構文になっていた。

「私はこんな気持になったからといって、欲しいものが手に入らなかった時に繰り返しだだをこねるのを止めたというどんな例も思い出すことは出来ません。」

10. That no promise appeals more powerfully to the heart of man is evidenced by the phenomenon that even those leaders who want to suppress freedom find it necessary to promise it. (九大)

< that >名詞節を導いて「～であるという事」, no+比較級構文「こんなに～なものはない」, < find it necessary to ~ >の it は形式目的語で, to 以下が真の目的語, 等多種の英語表現が短い文の中にあるだけでなく、抽象名詞が多く、従って抽象概念の文章になり訳出が困難である。

「これほど人の心に強く訴える約束はないという事が、自由を抑圧したいと思っている指導者ですら自由を約束することが必要であると気付いている現象によって立証される。」

11. I wonder how many Japanese people can stand three weeks without going to their offices and factories. (鹿児島大)

< wonder how > = be curious to know の意で, wonder + why 節 (又は if, how) で導かれる clause を目的語として「～かしら, ～できませんかしら」の意となる。

「何人の日本人が役所や工場に行かないで, 3週間過すのに耐えられるかしら。」

12. Individual education must always be reserved for the fortunate few who can afford to pay for an expensive privilege. (鹿児島大)

< must be > = be sure to, < can afford to ~ > = have enough money for something 「～する余裕がある」, 位が関係詞を中央にして左右にあるだけで複雑な英文ではない。

「個人教育というのは高価な恩典に対して金を支払うことの出来る幸運な少数の人々のためにいつもあるのに違いない。」

13. There seems, however, to be a limit both to the amount and to the trustworthiness of knowledge that can be transmitted orally. (九州工大)

<seems to be>=appear to be, or look like「～のように見える(見える), ～らしい」, < both……and ~>=not only……but also～「……も～もどちらとも」「しかしながら口頭で伝えることの出来る知識の量も信頼性もどちらも限界があるように思える。」

14. It is not solely a matter of facility in speaking and understanding English that determines the effectiveness of a Japanese at a conference table, but it is hard to imagine a man making much of an impression if he is totally dependent on interpreters. (熊本女子大)

< it is……that ~>= (emphasizing an adverb phrase) で「～なのは……である」, < not solely……, but ~>=not only……but also～(or, ~ as well as……) 「～だけでなく……も」, < make much of ~>=consider something as an important「～を重んじる」: 個々に見ると simple に見えるが, 強調構文が第一見落し易く, また, not solely……but が一番誤り易い英語表現であろう。全訳についてはひとひねりされた英文で学生がどこまで訳せたか疑問である。

「会議の席で, 日本人の有能性を決定するのは, 英語を話し理解する能力の問題だけでなく, もしその人が完全に通訳に頼っていたとしても, その場の感じを重視している人を想像するのは難しいものである。」

15. These gifts offer us not only the opportunity for a richer life than our forefathers enjoyed but also the opportunity to increase the sum total of human achievement by our own contributions. (九州工大)

< not only……but also ~>=as well as……, 構文中に比較級構文

があるので大きな構文を見落とし易い英語表現である。

「このような贈物は（前の時代の人による）、私たちの祖先が享受した生活より豊かな生活を送る機会ばかりでなく、私達自身の貢献によって人間の偉業の総量を増やす機会もまた提供してくれる。」

16. Both for good and evil almost everything that distinguishes our age from its predecessors is due to science. (九州歯大)

< both……and ~ > = (conjunction) not only……but also ~ 「どちらも、ともに」、< be due to ~ > = be owing to ~ (or, be caused by)

「~による」、(例) The accident was due to his carelessness.

< predecessor > = ancestor 「先祖」、< distinguish……from ~ > = show the difference between two things 「……と~を区別する」、etc, 慣用表現が多く含まれた英文で、語法力が要求される問題。

「善かれ悪しかれ、私たちの時代（現代）と先祖の時代とを区別する殆んど全てのものは、科学によるものである。」

- B-1. It never rains but it pours. (岐阜大)

< never (or, cannot) ~ without ~ ing > の変形である。< but it pours > = without pouring で but は接続詞で否定の意味をもっているが、否定+否定=肯定の文。

「降れば必ずどしゃ降り」

2. It is impossible to move about any great city today without noticing the number of people who seem to have nothing to do that is particularly urgent.

< cannot ~ without…… > の cannot の部分の変形構文。この impossible がよく用いられるので注意を要する。この impossible は < cannot……too ~ > 構文「いくら……しても~し過ぎる事はない」

に cannot の代わりに用いられているので、後続の文をよく読んで、つまり文脈で判断しなければならない。

(例) It is impossible to overpraise him for his courage. 「彼の勇敢さはいくら賞めても賞め過ぎにはならない。」と同じである。全訳は、「今日どこの大都市でも、あちこち行ってみると必らず、特に急ぎの用の無さそうな人が多いのに気付く。」となる。

3. He is kind indeed, but he is short-tempered.

< It is true that ~, but…… > の構文の変形で、To be sure or no doubt ~, but……, も用いられる。「なるほど～だが、しかし……」の日本語に該当する。

「なるほど彼は親切だが、しかし気が短かい。」

【6】まぎらわしい慣用表現が多い比較表現

A-1. The brighter, the more explosive and spontaneous the youngsters are, the more their classes are likely to bore them. (福岡女子大)
普通 < the + 比較級…A…, the + 比較級…B… > の構文は「Aすればする程、ますますBになる」という意味を表わすが、丁度その逆で、「Bすればする程、ますますAになる」と成る場合もある。ただしこの意味を表わす時は、Aの < the + 比較級…A… > は必らず文尾に置かれ、文頭に来る事はない。

(例) 「私は練習すればするだけ下手になる。」の英訳は、

I play the worse, the more I practice.

=

The more I practice, the worse I play. となる。

本文の訳出も次のようになる。

「若者が利発で激しやすく、自発的であればある程、ますます学校の授業というものは彼等にとって退屈なものになり易い。」

2. Nowhere is civilization so perfectly mirrored as in speech. (大分大)

本文は書き換えれば次のようになる比較級構文の変形である為訳出に工夫のいる英文であろう。(= Civilization is most perfectly mirrored in speech. 最上級相当表現) < no……so……as ~ > 「～ほど……なものはない」

「言葉ほど完全に映し出される文明はどこにもない。」

3. The higher we went up the hill, the more the village below looked like a picture. (九州工大)

< the + 比較級, the + 比較級 ~ > の慣用構文。

「丘に登れば登るほどますます下の村が絵のように見えて来た。」

4. 'I'm not in the least hungry', my guest sighed, 'but if you insist I don't mind having some asparagus.' (福岡教育大)

< not in the least > = not at all 「ちっとも～でない」, < mind + ~ing 形 > の mind は動名詞を目的語にとる動詞である。その他 finish, avoid, escape, give up, miss, admit, enjoy など同様に頻出度が高い語。訳

「私ちっともお腹はすいてないんですよ。」と客は溜息混じりに言った。「でもあなたがどうしてもとおっしゃるなら、少しアスパラガスをいただいてもかまいませんよ。」

5. He will learn these things not so much from what the other man says as from how he says it, for whenever we speak we cannot avoid giving our listeners clues about our origins and the sort of person we are. (福岡教育大)

< not so much A as B > の構文で, B rather than A 「A と言うよりむしろ B した方がよい」の構文と同意。比較構文では、文中で何と何

とが比較対照されているかを把握することが大切であろう。また本文では否定語を含む相関語句が多い事にも留意したい。〈cannot avoid giving〉=cannot help giving ~「与えざるを得ない」と同じであり、しかも〈cannot but + 原形〉表現とも同意である事に留意しなければならない。従って訳出は次の通りである。

「彼は相手の人が何を言ったかよりも、むしろどんな言い方をしたかから、これらの事を知るであろう。と言うのも、私達は話す時はいつも自分の生い立ちや自分がどんな人間であるかについての糸口を聴き手に与えずにはいられないからである。」

6. In such countries as India, for example, the problem of understanding is not so much between this leadership and the outside world as between it and the less educated people. (広島大)

〈such……as ~〉=of the same kind「~のような……」の意で, such は形容詞である。〈not so much……as ~〉は問5に出て来た比較構文と同じ。

「例えばインドの様な国では、理解(意思疎通)の問題は、その国の指導者層と外国との間にあると言うよりは、むしろ指導者層と教育程度の低い国民との間にあるのです。」

7. This is far graver problem than the one Japan faces, but is a domestic rather than an international problem. (広島大)

〈far〉は比較級を強める副詞である。「ずっと、はるかに」の意味がある。その他、比較級を強める副詞(句)には、much, very much, a great deal, a lot, still, evenなどが上げられよう。〈A rather than B〉=not so much B as Aと同じ構文として訳出する。

「これは日本が直面している問題よりも、はるかに深刻な問題であるが、それは少なくとも国際問題と言うより、むしろ国内問題である。」

8. It is at least conceivable that this results in creating fuller human beings that lived three centuries ago, to say nothing of the stone age. (大分医科大)

<at least>=at the lowest estimate or any rate「少なくとも、せめて」、<that>は関係詞で先行詞は human beings 比較級は普通<than ~>と共に用いられるが、何と比較されているかが文脈上、或いは、その時の状況から明らかな場合には、<than ~>は省略される。本問題文では、つまり反復を避ける為の省略であり、誤り易い英語表現である。全訳は次の通りとなろう。

「少なくとも、これが（こうした進歩の結果）、石器時代は言うまでもなく、三世紀前に生きていた人間よりも、豊かな（経験、知識のこと）人間ができたのだと思われる。」

9. Speech sounds stranger the more we attend to it. (山口大)

[6] A-1で説明を加えた様に、普通<the+比較級…A…，the+比較級…B…>の形であるが、その逆で、<the+比較級…A…>の部分が文尾に置かれた比較の変形構文で「Bすればする程ますますAになる」と訳出する、ひとひねりされた構文の危険な落とし穴的問題文であろう。「話し言葉は、私達がそれに注意を払えば払うほど、ますます奇妙に聞こえる。」

10. There is more in the fairy tales than meets the eye. (熊本女子大)
形容詞の<more>ではなくて、名詞の<more>の用法。=There is more in the fairy tales than at first seems apparent.

「そのおとぎ話には初めて目に触れる以上のものがある。（=そのおとぎ話には想像の及ばないものがある）」と意識も可能。

B-1. She knows better than to ask such a stupid question. (共通一次)

< know better than to ~ > = be not such a fool 「そんなだかではない、もっと分別がある」の意。比較表現の中には直訳したのでは、どうもピンとこないものがある。B-1, 2, 3, 4, 5, 6, 7はその典型的な表現方法である。尚、本文の訳出は次の通りである。

「彼女は、そんなくだらない質問をする様なばかではない。」

2. He is the last man I want to see.

形容詞の < last > = most unlikely, or most unsuitable 「最も～しそうなもの」の意。訳出に工夫のいる英文。「私が見たいと思う最後の人」から→「彼が一番会いたくない男だ。」と訳すべきであろう。

3. Don't give me more trouble than you can help.

このように否定構文で < than > のあとに用いた < can help > は意味上 < cannot help > である。この時の < help > は = prevent, avoid の意味「避けられない苦勞」で用いられており、訳は、「私に余計な苦勞をかけるな。」となる。

4. He is no better than a beggar.

< no better than ~ > = mere 「単なる、～にすぎない」の意で、この < no > は比較級の形容詞を強く否定する。尚、< better > とは反対の意の形容詞を考えて、< as bad as > と置き換えてみるとよい。全文訳次の通り。

「彼はこじき同然だ。」

5. The least I can do is to give him advice.

< the least > 「最もつまらないもの(こと), 最小」, 逆に < the most > を用いたら「私にせいぜい出来る事は……」となる。従って和訳で注意を必要とする文の一つ。

「私がせめてしなければならない事は、彼に忠告する事だ。」

6. I felt as much at ease trying to dance as a cat would try to swim.

(横浜国大)

＜ as much ~ as……＞「……と同じ程度に～」

「踊れないダンスを踊ろうとして、私は猫が泳ごうとするのと同じ様な苦しみを味わった。」

7. He has more books than he can read.

＜ more……than can ~＞の＜ than＞のあとの文が否定形でなくても否定に訳す、日本語表現と違う、英語独特の口語表現の例である。

「彼は読みきれない程の本をもっている。」

【7】誤りやすい仮定法表現

- A-1. Those records could never have come into being had language not been there to permit that intelligent, fully-developed cooperation between two or more human beings. (大分大)

仮定法でも、＜ if 節＞があれば分かり易いが、無い場合は、＜ if＞節の内容を文脈から想像して、その意味を込めた訳し方が必要になる。この文では、＜ had language not been……＞の文に＜ if＞が省略されて倒置になっている変形の仮定法過去完了の英文である。公式通りの形に戻してみると、＜……if language had not been there……＞となる。この書き換えが出来る学生は下線部の訳もこなせるはずだが、高校教育を不消化（未理解）のまま受けている者も少なくはない。全訳は次のようになろう。

「もしも人間と人間の間に見られるあの知的で十分に発達した協力関係を可能にする言語が存在しなかったならば、これらの記号は、決して生まれることが出来なかったであろう。」

2. Now let us suppose you were to walk into a room full of English-speakers and perform the same actions, they would not be particularly surprised,.... (宮崎大)

< suppose > = if (or assume tentatively). 仮定法過去の方で、現在の事実の反対のことを仮想している。このように < if > を用いない仮定法表現に留意すべきである。

「仮にあなたが、沢山の英語を母国語とする人たちの所に入って行ったら、同じ行動をしたとしよう、彼等は取りわけ驚くこともないでしょうし、....。」

3. The old opposition would again appear if the State were not omnipotent to a degree undreamt of by the tyrant of former ages. (九州歯科大)

< if > 節の後置で帰結文が前に出て来ている仮定法過去の表現の為訳出に誤り易い英文でありまた、抽象名詞が多く、文章も古く感じられ、日本語にしても意味がはっきりしない。単語 < omnipotent > = unlimited power 「全能の、無限の力のある」、抽象概念の文章で新課程の入試英語で受験生が、どれだけ理解出来たか興味深い。

程に全能でないならば、昔のような反対者が再び現われるであろうに。」

4. One phenomenon that supports this view is that throughout history nations and classes have fought their oppressors if there was any possibility of victory, and often even if there was none. (九州大).....(仮定法とまちがいがやすい表現)

この文の < if > は最も一般的な語で、単に条件を表わし、実現性の有無に関係なく用いられる if である。また suppose, supposing は共に if の代わりに用いられるが suppose の方が口語的である。本問は

抽象概念の文章で、受験生には極めて訳出に工夫のいる誤り易い表現法であろう。全訳は以下の通りです。

「この理解を裏書きする一つの現象は、歴史を通じて、国家や階級が自分を抑圧する者に対して勝ち目があれば、戦いを挑んで来たり、勝ち目がない場合ですら、戦った事もしばしばあったということである。」

B-1. A true friend would not keep silent on such an occasion. (名城大)

この文は主語に条件、仮定が含まれた英語表現である。if を用いて書き換えれば次のようになる。

=If he were a true friend, he would not keep silent on such an occasion.

「真の友人だったら、こんな時に黙ってはいないだろう。」

2. It was so quiet that a pin might have been heard to drop.

この文も主語の中に条件が含まれている仮定法過去完了表現で、公式通りの形に戻してみると次のようになる。

=If a pin had dropped, it might have been heard to drop. 従って全訳は、

「大へん静かだったので、ピンが落ちてても聞こえる位だった。」となる。

3. I could have cried. (一橋大)

英語は日本語に比べて、事実と仮定の区別が厳しい。従って、< if > のない仮定文を、「仮定だ」と看破する手がかりは、動詞の時制と、(would, should, could, might) の4個の助動詞である。本文のカギは、帰結文の< could have+過去分詞>で、これから仮定法過去完了の構文を判読出来よう。以下全訳、

「(泣いていたいものなら) 泣きたいくらいだった。」

4. You might help me.

< may >の過去の< might >を用いて願望文になる。< if >節の内容を文脈から想像出来る。本文は、特に不満を表わす口語表現「～してもよいのに」で頻出度が高い表現法である。

「手伝ってくれてもいいのに。」と訳出でき、< If you are free……, >のような条件文が本文の前に想像できる。例えば、「手伝ってくれてよかったのに。」を英訳すると、< You might have helped me. >となろう。

【8】直訳したらピンとこない会話表現

A-1. Why don't you follow my example? (福岡教育大)

会話に用いる独特な表現で、知らないと全くお手上げになってしまふ。この< why >は< How about ~? >の意味で、「～したらどう」という意味。例えば、Why don't we start out the next day? (筑波大)の訳出を考えてみよう。「その次の日に出かけたらどうだろう。」従って本文は次のようになる。

「私という手本に習ったらどうですか。」又は「……に習ってみたいかがですか?」

2. We have given these cherries a good wash. (九州歯科大)

< give something a good wash >で「物をよく洗う」という意味。
「さくらんぼはちゃんと洗ってあるからね。」

3. This picture does not do Jim justice. (九州工大)

< do someone justice > = do justice to someone (= treat fairly)

「……を公平に取り扱う」という意。従って本文訳は次のようになる。
う。

「この写真のジムはあまり写りがよくない。」

4. Last night I was quite at a loss, for my car got out of order. (九州工大)

< at a loss > = not know what to do or say 「途方にくれて、当惑して」、< out of order > = not in order 「ばらばらで、不調で」から「故障して」と訳出できる。

「昨夜車が故障してしまい全く困ったよ。」

5. I'm sure most of them have already been here by now. (大分医科大学)

現在完了形 < have been here by now > から判断して、状態を表わす完了形と分かる。会話表現は意表をつく英文が多く、沢山の慣用構文にふれていない日本人には日本語にしにくい。本文訳は次のようになる。

「もう皆さん、そろそろお揃いですよ。」

- B-1. Sorry I'm a stranger here myself. (西南大)

< stranger > = a person from another place or country. 従って和訳は、

「すみません、私もこのあたりは不案内なのです。」

2. Remember me to your family. (西南大)

< remember > = mention someone to another as sending greetings

「……からよろしく伝言する」から訳出が可能である。

「家族の皆様によろしく。」

3. Take my word for it. (早大)

< take my word > = take it from me (or, believe me when I say)

という意味。従って本文は次の日本語がなりたつ。

「私の言うことを信じなさい。」

4. Won't you have another helping? (西南大)

< helping > (名詞) = a serving of food の意。例えば < a second helping > の意味は、「おかわり」となる。これから判断して訳出も可能。

「おかわりはいかがですか？」

5. None of your business! (学習院大)

< business > = what has to do with (or, right to concern) 「関係のある事、筋合」, 本文は, < It's none of your business > の < It's > の省略された典型的な会話表現である。本文の意味は,

「お前の知った事じゃない。」または、「余計なお世話だ。」

同じ例に, < Mind your own business (affairs) > 「いらぬお世話だ。」もある。

逆に, 「私の知ったことではない」はどう表現すべきか? < your > が < my > に変化するだけでよい。つまり, < It's none of my business > となる。こういう場合, native speakers は,

“That is no skin off my nose.” と言う。「それは私の鼻から落ちた皮膚なんかじゃない。」

とは? 日焼けでもして, むけ落ちていた皮膚の一部を, 「おい, お前の鼻の皮だろう。」と誰かにつきつけられて, 「いや, 俺のじゃないよ。」と慌てふためいている所から来たそうです。

< no skin off one's nose > は, 「～には関係のある事ではない。知った事ではない。」と言う意味で, 人の干渉を退ける時の成句, つまり慣用表現として日本人には理解しにくい英語表現である。

6. その他欧米人によって書かれた悪い英語論文の特徴
— 英文の出典は58年度西南大法学部入試問題より。—

Anyone who watches television knows that there is a great deal of violence in prime time shows. Murder, assault, rape, and other acts of violence appear with high frequency. Why do programmers choose to include so much aggression in their prime time shows? One answer, often supplied by network officials, is as follows: viewers enjoy watching violence. Thus its presence in a given program increases that show's appeal and overall ratings. In short, violence is included because it "pays." At first glance, this seems to be a very reasonable suggestion. All of us have found ourselves enjoying the excitement generated by a war movie, or a Western gunfight. But are our subjective feelings in this respect really accurate? Does the inclusion of violence in television shows actually boost their popularity among viewers? If violence adds to program popularity, it may prove very difficult to convince such persons and sponsors to reduce the amount of violence in prime time shows. After all, doing so may sharply reduce the ratings of these programs. On the other hand, if it turns out that violence does not really contribute to high ratings, the task may prove to be much easier. Is there, then, a link between violent content and program popularity? The answer provided by research conducted recently by Diener and DeFour seems to be "() ."

In their investigation, Diener and DeFour had specially trained raters watch many episodes of eleven popular shows. These raters scored each program for the presence of several types of behavior: verbal and physical aggression, suspense, emotion, romance, action, and humor. The ratings obtained in this manner were then related to each show's popularity in order to determine whether viewer reactions could in fact be predicted from program content. The results of the study were uniformly negative.

There was no apparent link between the amount of violence contained in each show and its rating.

As you can see, this finding raises serious doubt about the view that televised violence pays. To the extent that television executives and sponsors can be made aware of these findings—and be convinced to accept their implications—it seems possible that we shall begin to see a sharp drop in the volume of televised violence in the years ahead.

この英文は、おそらくアメリカ人（英語作文力においては高卒程度のアメリカ人）が書いたと思われる英文で、語法上の乱雑さが目立つ、やや不自然な英語である。日常のトピックをむずかしい言葉、文体を使うほうが学術的と考える誤解に由来するのではないだろうか。多くの欧米人は英語の使い方に安易すぎる点があり、大げさで、抽象的で、動名詞をいたずらに使ったりする様に思われる。トピックの場合は日常的思想を基礎にすべきで下線部の語句等に簡単にして明確に出来る。次にこの英文の表現の諸問題を取り上げ、その実態、特に表現の中に、またはその背後に介在する欧米人の物の考え方に立ち入って考えて見たいと思う。

< suggestion >「提案」の usage が間違っている。「提案」ではなくて、その前の文章では、「意見」だったので、< view >または、< opinion >とする英語が語法上正しい。従って訳出は、「つまり暴力行為が含まれるのは利益が得られるからです。表面だけ見れば、これは非常に論理的な考え方である。」となるだろう。< subjective >「主観的な、個人的な」、この subjective という単語も不適当な使い方で、this feeling 程度の意味しかない。「けれども私たちの（勝手な）発想は、この問題に関しては本当にあたっているでしょうか？」の意味。< several types of behavior >は verbal and physical aggression のみであって、suspense, emotion, romance, action and humor はこの部類に属さない。下線部前後の訳は「この率をつける人達はその番組を見て得点をつけたのです。その得点は言葉と肉体の暴力行為、またサスペンス、情、ロマンス、アク

ション，そしてユーモアなどである。」< The ratings > The score がすっきりしてよい。前の文で score を用いているので ratings としたと思われるが，この部分は正確な情報を読者に伝えるべき重要なポイントであるから scores を用いるべきであろう。< uniformly negative > 「(この調査の結果は) 一様に否定的であった……。」前後関係の文脈から想像して，negative を用いる時はもっと調査の内容を明確にさせた時用いる語であって，ここでは不適當な用法であろう。その他，アメリカ人の英語表現の乱雑さの例としてあげると，

She was such a popular actress that every play she acted made a great hit. の acted の後に前置詞の in が脱落している。